

女性会だより

白山商工会議所女性会 第七十四号



平成三十年度 県連会員大会
断捨離を学ぶ

平成三十年七月三日（水）、ホテルサンルート小松において石川県商工会議所女性会連合会第十八回会員大会が開催されました。大会終了後、「断捨離」モノ・ユト・ヒト・そして心の片付け術と題し、講師に東京都出身小松市在住のやましたひでこ氏をお迎えして、記念講演会が開催されました。



やましたひでこ氏

断捨離」とは引き算である

断捨離」この言葉は、もうすっかり世の中に定着し、二〇〇九年十二月には、流行語となり、ご自身の行動哲学だと言います。しかし、正しく「断捨離」が伝えられているとは言えません

ん。

生活の空間・モノとの関係・時間の流れから考えます。自分がこちよく過ごす空間の最少量、その空間を保つためのモノとの関係を見直します。そこには時間の流れも関係しています。前に必要でこちよかったモノも、時間の経過とともにそうではなくなっているモノなど、断捨離に必要なのは引き算の視点、思考、行動で解決していくことです。

断捨離」とは引き算の生活へ
まず、モノから生活空間・生活時間の引き算をスタートしましょう。入れ替わりに足し算されるモノ、それは空間の余地と頭と心にも余地、ゆとりが取り

戻せます。

モノに対し、まだ使えるから捨てられない、もったいないの価値観を抱え込むことで、モノのために自分を圧迫しています。モノとの関係においても、自分が「主役」です。大切に大好きなモノでも多すぎれば敵になることに気づくことです。モノを中心に考えると、「まだ使える」になってしまいます。時間経過によって使えなくなるモノ、それは愛着なのか、執着なのか…。人間関係においても、時間の経過と共に変化していきます。付き合い方を変えていくことで、より良くいられる関係になっているか、人との距離の取り方を最適化してゆくことです。

人も家も呼吸しています。モノにあふれ息苦しい、でも面倒だ、心があきらめ絶望的になる、

思考は停止もちろん行動も止まってしまう。するとモノで心を埋めようとしします。メタボ状態では体調を崩し健康を害します。まず、体調を整え健康になりましょう。健康になる為には、老廃物を体外に出す必要があります。

老廃物を出してしまうと心が軽くなります、ゆとりが生まれます。思考は動き行動も楽になります。ストレスも減らせます。そして家にも空間が生まれ、心身ともにリフレッシュできます。さあ、断捨離で健康な毎日を送りましょう。

視察研修 加賀を楽しむ

「秋」と言えば、おいしい食べ物や文化芸術に親しむのが一番です。女性会では 伝統工芸 九谷焼とエコモビル、秋の味覚と加賀を楽しむ旅」を企画しました。

平成三十年九月十二日（水）、白山商工会議所を出発し加賀市豊町 加賀フルーツランド」へ向かいました。二十五万坪の広々とした敷地に、いちご・ぶどう・りんご等さまざまなフルーツが栽培されています。八月下旬より九月末までは「ドラックオリンピア」ネオマスカット」が楽しめます。ドラ

ックオリンピア」は巨峰系の粒ぶどう、甘み香りとともに濃厚で、口いっぱい広がるぶどうの風味で食べ応え十分です。ネオマスカット」は香りがあり酸味が少ないので口当たりが良く、さっぱり系のぶどうです。それぞれの味わいを堪能する贅沢な時間を過ごしました。



フルーツランドにて

次に訪れたのは、JR大聖寺駅のほど近く 古九谷の杜 親水公園」の一角にある 石川県

九谷焼美術館」です。青手、色絵五彩手、赤絵金欄手と呼ばれる上絵付けの三様式に合わせて、それぞれ趣向を凝らした展示室に作品を並べ、三百六十年もの歴史をもつ九谷焼の魅力を紹介しています。

世界的にも高評価の九谷焼は、江戸前期に誕生した九谷焼は、大聖寺初代藩主 前田利治のもと、領内の九谷村で磁器の原料となる陶石が発見されたことにより作られ始めました。この頃に作られた九谷焼は後世、吉九谷」と呼ばれ、特別視される名品として伝えられています。突然生産中止となりました。江戸後期、九谷焼は復活しま

す。赤絵スタイルが誕生しました。この頃の九谷焼を「再興九谷」と呼んでいます。



九谷焼の解説を受ける

一八二四年、大聖寺城下の富裕な商人であった吉田伝右衛門は「吉田屋窯」を築きました。採算を度外視した品質追求は経営を苦しめ、七年後窯の閉鎖に追い込まれましたがその直後、宮本屋宗右衛門へ引き継がれ「宮本屋窯」として再開されました。

「吉田屋窯」の閉鎖で衰えた「青手」の九谷焼は、一八四八年藩が新たに築いた「松山窯」で再び盛んになりました。

明治維新を境に藩からの支援はなくなり、自活を迫られた職人たちは「窯元の中の「職人」から「美術工芸品の作家」となり名を挙げる努力をし、その中から名工が輩出されました。

昭和後期より、伝統的美術工芸品としてのブランドが確立され、現代美術の要素を取り入れ「工芸品」の枠を超えた「美術品」として制作されました。現在はライフスタイルに合わせた多種多様なデザインの器が生み出されています。色絵具のグラデーションによる鮮やかな

絵付けを完成させた三代目徳田八十吉や、金の飾り付けを釉薬ゆうやくでコーティングすることにより上品な輝きを放つ作品に仕上げた吉田美統が「人間国宝」に認定されました。

九谷焼も様々あり

「吉九谷」の特色の「青手」とは緑の絵の具を印象的に配色して素地の余白をほとんど余すことなく器全体に色絵具を鮮やかに塗ることが特徴です。

「五彩手」とは「九谷五彩」と呼ばれる緑・黄・紫・紺青・赤の色絵具を自在に活用したものの、屏風や掛軸から器へ抜け出したかのような絵画を描いた熟練された絵付けの筆遣いが見所です。

「赤絵」とはにじみにくい赤の色絵具の特性を活かし、器全体に「細描」と呼ばれる細かい描き込みを施したもので、金の飾り付けで華やかに彩られた作品が多く、背景を赤で塗り埋め金で絵付けしたものは赤絵の中でも特に「金欄手」と呼ばれています。

九谷焼の歴史を年代ごとの作品を鑑賞できる貴重な時間を過ごすことが出来ました。

お楽しみのお昼食は、安宅「まつや」にて、穏やかな日本海を眺めながら趣向を凝らした、美味しい季節のお料理を堪能しました。



温モビ

そして最後は、温モビ 二人乗り電気自動車)の体験です。温モビとは、公道を走行できる二人乗り超小型電気自動車のレンタルサービスのことです。貸出し場所は三方所あります。片山津温泉インフォメーションセンター「由代温泉すだに酒店」由中温泉山中座」です。加賀温泉を楽しむための三次交通手段です。加賀の見所を廻るのにとっても便利な乗り物です。



操作の説明を受けます

私たちは 片山津温泉インフォメーションセンター」の温モビに試乗しました。まるで公道を自在に走ることの出来るゴーカートのような楽しさです。是非みなさんも体験してみてください。本当に楽しい乗り物です。可愛くてオシャレでめだちます。近未来には、一人〜二人用のミニカーとして普及しているかもしれないですね。

新入会員のご紹介 ~ご加入ありがとうございます~

小林祥子さん (スナック祥) 飲食店 辰巳町

エコキャップ 収集報告

収集にご協力ありがとうございます。

第13回引渡し結果(平成30年11月8日)

収集キャップ個数 68,800 個

収集キャップ重量 160kg

ポリオワクチン相当数 80人分

収集期間 平成30年4月~10月

ペットボトルキャップ1個からでもOK!

商工会議所ロビーに回収箱があります。

いつでもお持ちください。



新年会のご案内

新年のひとときを一緒に



日時 平成31年2月1日(金)

午後6時30分より

場所 喜太(木津町)



皆さまのご参加お待ちしております。

詳細は同封のチラシにてご確認ください。